

◆ 産 業



買物客でにぎわう商店街





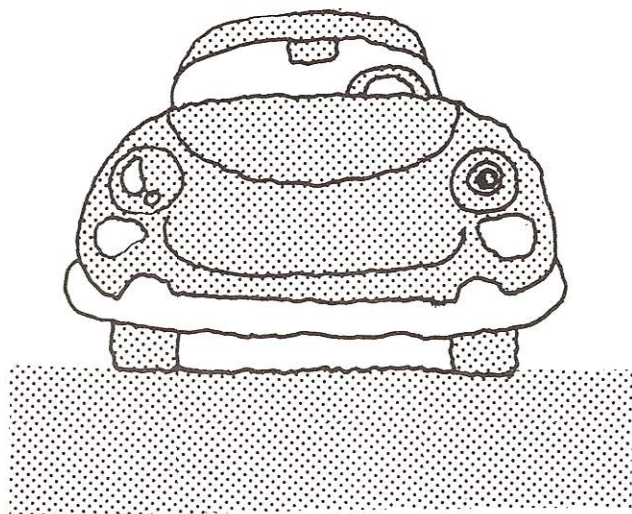
取引にも熱が入る（青果市場）

当市の経済活動の根底をなすのは何といつても商業活動といえましょう。ことに小売業の伸びは著しく、年間販売額が昭和41年～45年の間に2倍以上も伸びているところに大きな特徴が読みとれます。これは立川、八王子、青梅を結ぶ三角形のほぼ中心に位置し、当市の区域を越えて商圈を確保できるという地の利に立脚していることから、今後の発展が期待できるといえます。

工業については、その水準は比較的 low、工場規模も従業員4～9人の小規模の事業所が大多数を占めるなど、その実体は住宅都市としての当市の発展と相関関係にあるのが現状です。今後、工場の進出は、よほどの生産性の高い企業でない限りは、現在の地価の高騰からは考えられず、むしろ問題点としては市街地にある工場の騒音、振動等の公害問題等を踏まえ、再整備が、総合的なまちづくりの中から考慮されるべきだといえます。

農業については、都市化への対応が比較的スムーズに進み、著しい衰退の割には混乱もなく、円満に転換しつつあるというのが現状です。これは農地の大部分が宅地化が容易で、農地所有者から地主への移行が可能ということに大きな理由があり、そこから貸家経営という、新しい経営問題等も生じています。したがって、農業自体の維持発展を図るといふより、今後いかに、都市化になじませていくかが大きな問題です。





最近あまりみられなくなった農作業



◆ひろがる情報



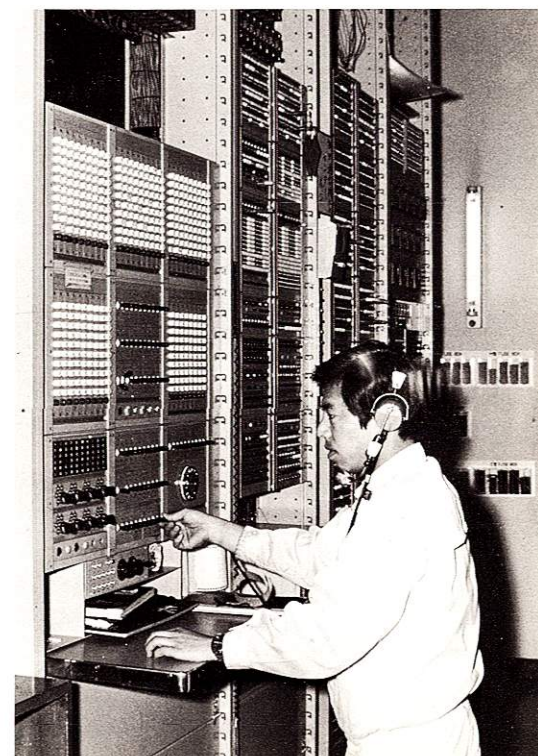
工場団地



郵便局



国道16号線



電話局 33